

コマツレポートについて

このコマツレポート（統合報告書）では、当社のサステナビリティを重視した経営と成長戦略の進捗状況について、ステークホルダーの皆さまにお伝えすることを目的としています。

中長期視点



見通しに関する注記事項

当レポートに記載されている将来の業績に関する予想、計画、見直しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績はさまざまな要因の変化により、記載されている予想、計画、見直しとは大きく異なることがありますことをご承知ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行の変更などが含まれます。

報告対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日

- ・最新の状況をご報告するため、報告対象期間以降の活動内容も記載しています。
- ・当レポートに記載している「2023年度」および「2024年3月期」は、特に記載のない限り、2023年4月1日から2024年3月31日までの期間を示しています。

参照ガイドライン

IFRS 財団「国際統合報告フレームワーク」と、経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」を参照しています。

PDFについて

各ページ上部メニュー…各セクションに遷移することができます。

Web ……記載内容に関連する外部ページに遷移することができます。

P ……記載内容に関する本レポート内での関連ページに遷移することができます。

カバーストーリー (P.1) について



■月面建設機械プロジェクト

本プロジェクトは、日本政府の「宇宙開発利用加速化戦略プログラム」（スターダストプログラム）の一環として、2021年7月に国土交通省が決定した「宇宙無人建設革新技術開発推進事業」の公募にコマツが応募し、選定を受けたことから始まりました。現在は「デジタルツイン技術を活用した、月面環境に適応する建設機械実現のための研究開発」を実施しています。

■未来の水中工事

コマツは1971年にラジコン操縦の水陸両用ブルドーザーの量産を開始しました。昨今の気候変動により激甚化・頻発化する自然災害や巨大地震の防災・災害復旧に対応するため、青木あすなろ建設株式会社と共同で、水中施工ロボットやビッグデータ、AI解析を用いた「未来の水中工事」を目指しており、この取り組みを2025年の大阪・関西万博で紹介する予定です。

WE SUPPORT



コマツは「国連グローバル・コンパクト」（UNGC）に署名しています。UNGCが主唱する10原則と、コマツの取り組みの関係については下記 Web サイトをご覧ください。

Web 国際基準との対比



コマツは「持続可能な開発のための世界経済人会議」（WBCSD）に加入しています。